

OSAKA NDS Embedded Linux Cross Forum #9

## **オリンパスグループにおける OSSライセンス コンプライアンスの取り組み**

- OpenChain Japan WG case studyとしての活動事例のご紹介 -

**2019年7月5日**

**オリンパス株式会社**

**OSSコンプライアンス室 小泉 悟**

**商号** オリンパス株式会社  
(Olympus Corporation)  
**設立** 1919年  
**連結売上高** 7,865億円  
**連結従業員数** 35,933人  
**グループ会社数** 98社

東京・本社



2018年3月期

## 主要 3 事業

### 医療



### 科学



### 映像



カスタマーソリューション開発 ソフトウェア開発推進 推進1 所属。

オリンパスグループ全体のOSSに関する事項全般を取り扱い、社内的には「OSSコンプライアンス室」（OSS Compliance Officeの頭文字を取ってオスコ（OSCO）と呼ばれることも多い）を名乗る。

ベンチャー企業にてフィーチャーフォン向けの組込みソフトウェア開発に10年近く従事した後、2010年12月より（実質的に）現職（当時はオリンパスのソフトウェア開発子会社であるオリンパスソフトウェアテクノロジーに所属）。

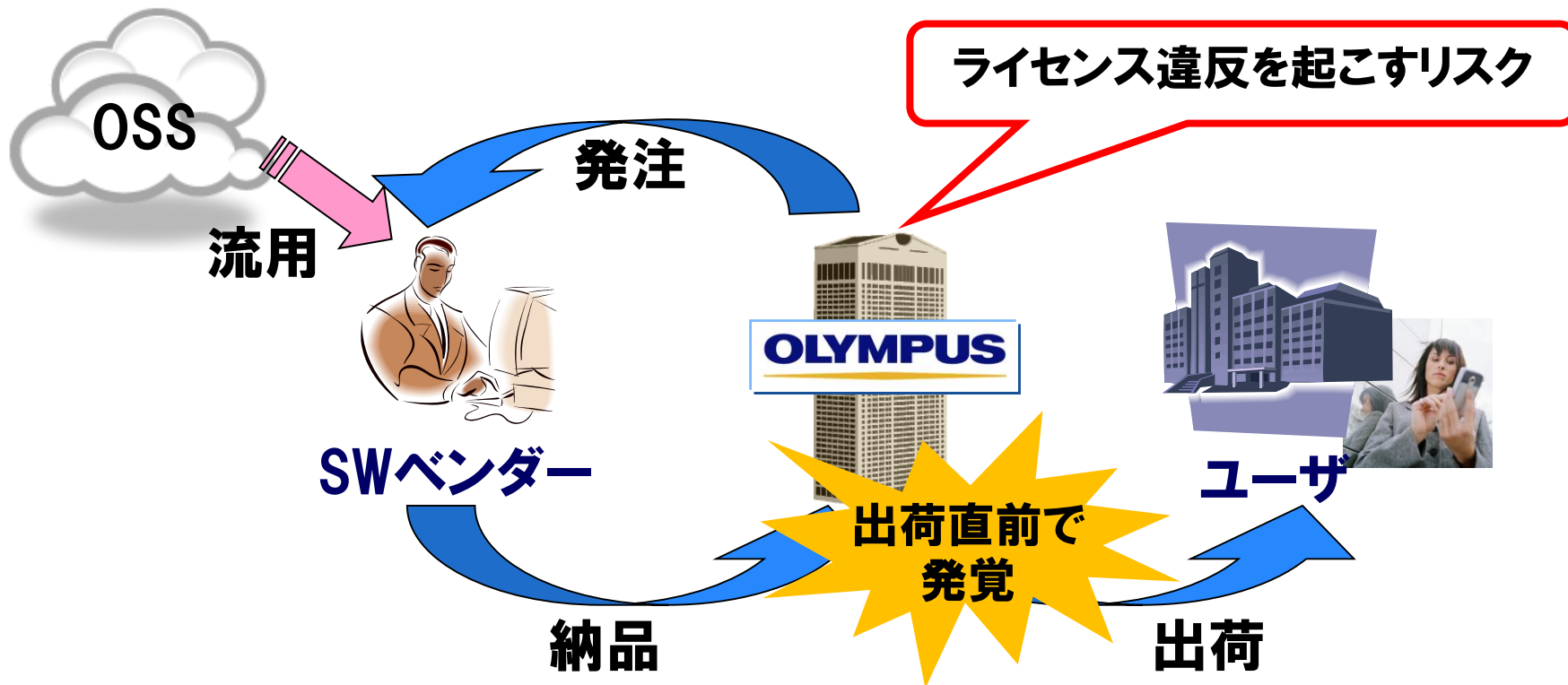
OpenChain Japan WGではPlanning、License Info、Educationの各サブグループのメンバーとして活動中。

個人的にもOSSに関わっており、日本PostgreSQLユーザ会からは2010年度と2011年度の2回、JPUG感謝賞を受賞。



- 1. 経緯**
- 2. 運用の実際**
- 3. OpenChain Japan WGとの関わり**

## グループ内でヒヤリ・ハットが発生！



ベンダーに開発を依頼していたソフトウェアでOSSを利用していたことが判明。出荷直前で発覚し、対応を至急実施。

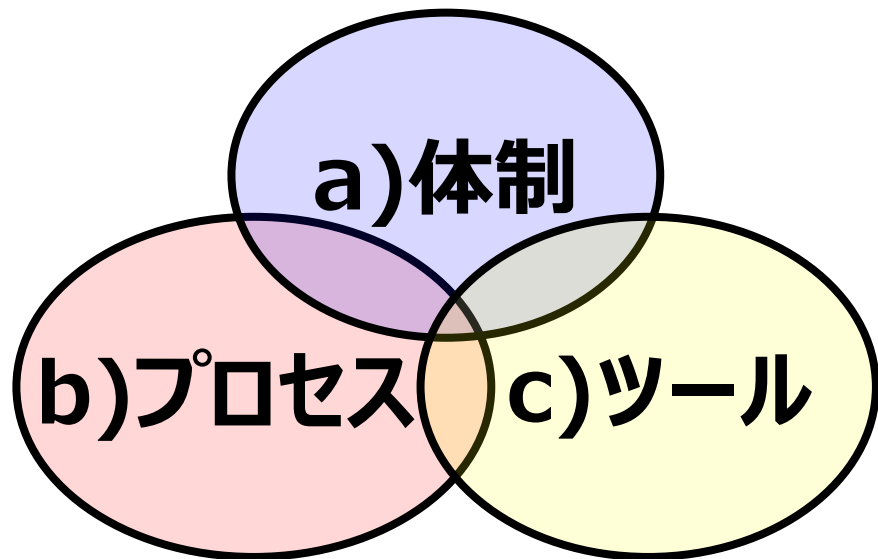
今後 コンプライアンス違反の発生を防ぐことを目的とし、

**1. 意図的なOSS利用時の確実なライセンス対応**

**2. 意図しないOSS混入防止**

が徹底できる仕組みを構築する

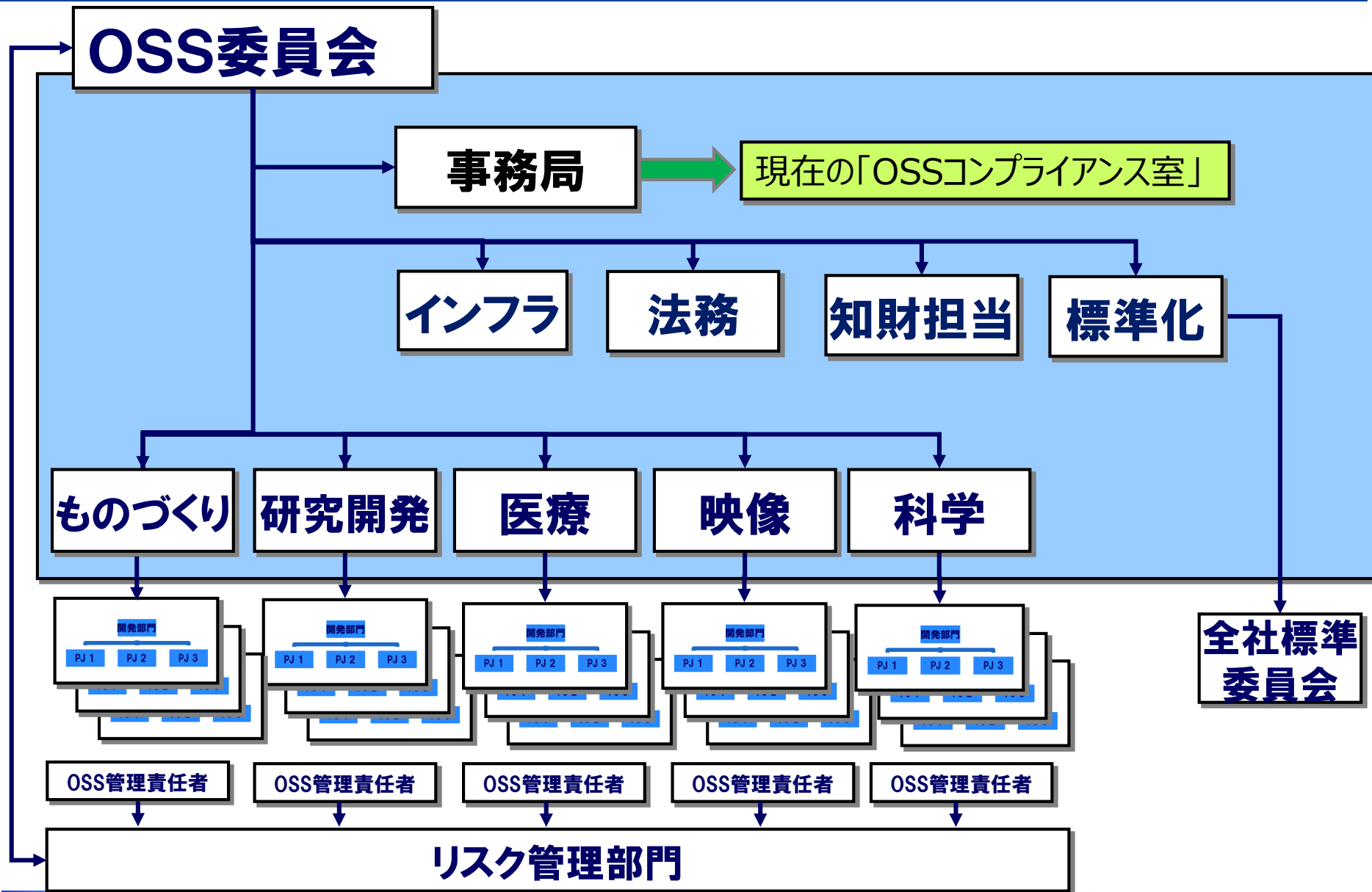
グローバルも含めたオリンパスグループより頒布する  
ソフトウェアすべてに適用する。



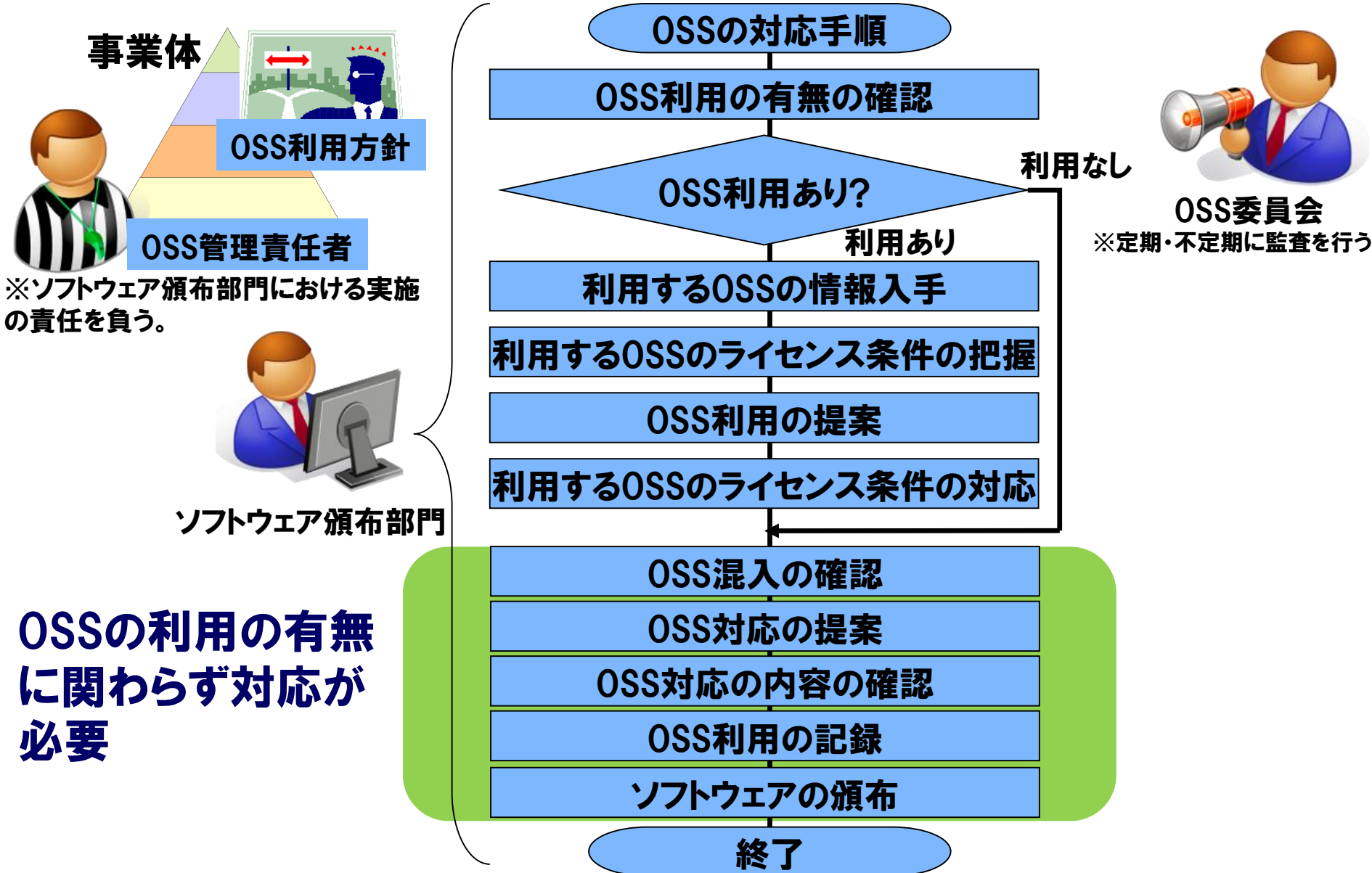
運用していくための  
三つの要素の基盤を構築

## 2. 運用の実際 - a) 体制: 全社委員会

7/16

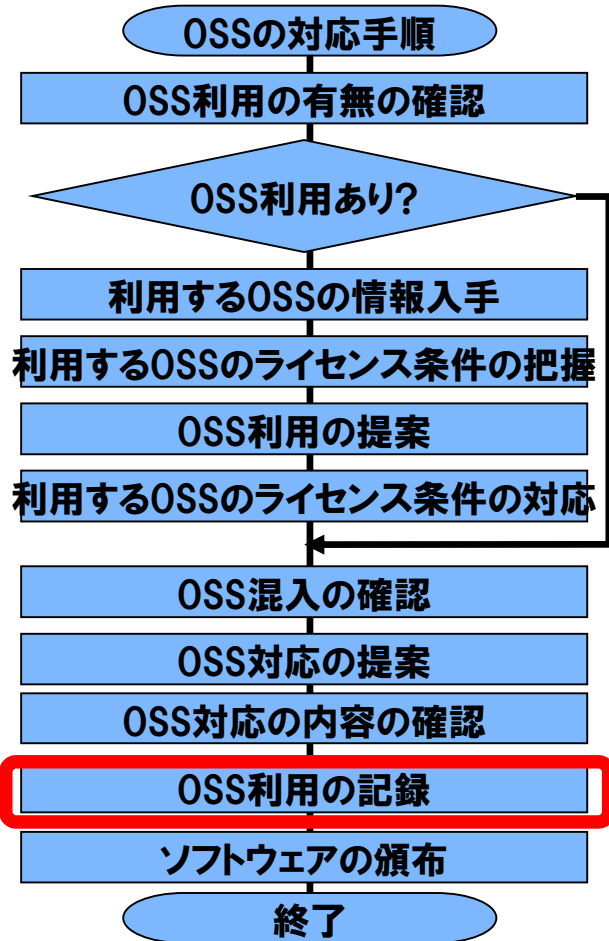


# b) 全社標準プロセスに含まれたOSS関連プロセス





# 「OSS報告書」



OSS（オープンソースソフトウェア）報告書			識別 No.	
氏名 / Name 印 / Signature	作成 / Author	審査 / Verifier	審査 / Verifier	承認 / Approver
			(GL クラス)	(BM クラス)
日付 / Date	/ /	/ /	/ /	/ /
作成部署	部 G			
製品名称	(和文)	コードネーム (テーマ名)		
	(英文)			
利用する OSS 数	利用なしの場合は「0」（ゼロ）を記入 利用ありの場合はこの数値と「OSS ごとの情報」の数は一致させる			
混入確認の実施	実施済み (実施日: / / )		未実施	
混入確認の結果	混入なし	混入あり ※混入ありの場合は 頒布不可	エビデンス	
コメント				

#	OSS ごとの情報				
1	基本情報				
	名称				
	バージョン				
	開発者 (著作権者) 名				
	取得元の URL				
	ライセンス条件				
	ライセンス名称				
	ライセンスタイプ	GPL タイプ	LGPL タイプ	MPL タイプ	BSD タイプ
	利用方法				
	リンク形式	静的リンク	動的リンク	プロセス間 通信	独立した プログラム
	ソースコードの改変	あり		なし	
	ライセンス条件の具体的対応方法				
	著作権の表示方法				
	ライセンス本文の表示 方法				
	免責事項・無保証・特 許などに関する記載の 表示方法				

- **OSSに関する情報を集約 (“OSS Knowledge”)**  
**ナレッジサイトの構築**（ライセンス、利用事例、Protex利用申請方法等々）



- **OSS混入チェックツールであるProtexを導入**  
最終的には導入範囲をグループ全体にまで拡大

## 教育体系

講演会

集合研修

e-Learning

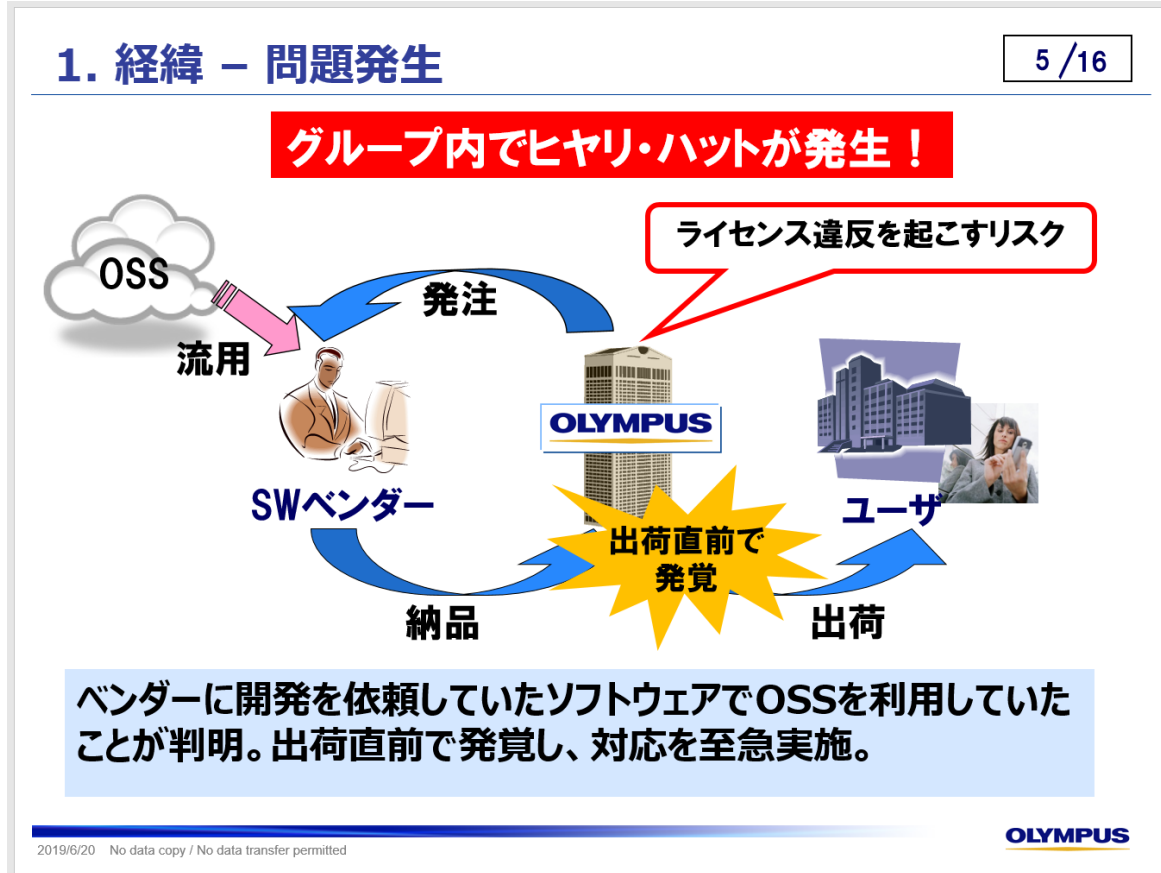
資料配布

経営者向けOSS研修	戦略立案や方針策定、OSS利用を判断する経営者向け
OSS検出ツール研修	OSS検出ツールを使用する担当者向け
SW開発者向けOSS研修	OSS利用を提案、OSS利用状況を把握する担当者向け
法務担当者向けOSS研修	OSSを利用する案件を担当する担当者向け
知財担当者向けOSS研修	OSSを利用する案件を担当する担当者向け
OSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発、頒布する担当者向け
SW開発委託者向けOSS基礎	OSSを利用した販促品の開発委託やOEMの仕入れを担当する担当者向け
ユーザー対応者向けOSS基礎	製品購入したお客様と接する営業やサポート担当者向け
パートナー向けOSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発するパートナー向け

教育コンテンツは海外展開に合わせ翻訳も実施し、海外からも閲覧ができるサイト (OSS Knowledge) にて公開

ここまでの取り組みは「**まずは自分がしっかりやろう**」というものです。

でも、オリンパスだけが取り組んでも、この取り組みのきっかけとなった問題に対する解決策としては十分ではありません。



→自社だけではなく**サプライチェーンの各社にも対応してもらうことが必要**

もちろん最低限の手当てを  
行います。

→

「利用の有無の確認書」を  
プロセスに組み込む

\_\_\_\_\_ 様

## オープンソースソフトウェアの利用の有無の確認書

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度貴社からの納入物（製品、部品、ユニット、ソフトウェア、またはサービスなど）に、公然利用可能なソフトウェアであって、一般的に「オープンソースソフトウェア」と呼ばれているソフトウェア（以下 OSS と呼ぶ）が利用されているか否かを教えて頂きたくご連絡申し上げました。つきましては納入物における OSS の利用の有無について、本信末尾の回答欄にご記入いただき、貴社御記名捺印の上、弊社宛にご送付賜りたくお願い申し上げます。また、納入物に OSS が利用されている場合には、さらに以下の情報を納入物ごとに提供していただけますようお願い申し上げます。

記

- 1) OSS を含んでいる納入物の名称
- 2) 含まれている全ての OSS の名称のリスト
- 3) 含まれている全ての OSS のライセンス条文、または利用条件
- 4) 著作権に関する告知文章（必要な OSS に対して）
- 5) ソースコード、オブジェクトコード、およびそれらに付随した情報（必要な OSS に対して）
- 6) オリンパスが当該 OSS またはその派生物を複製、翻案、改変または頒布するにあたり必要なその他の情報

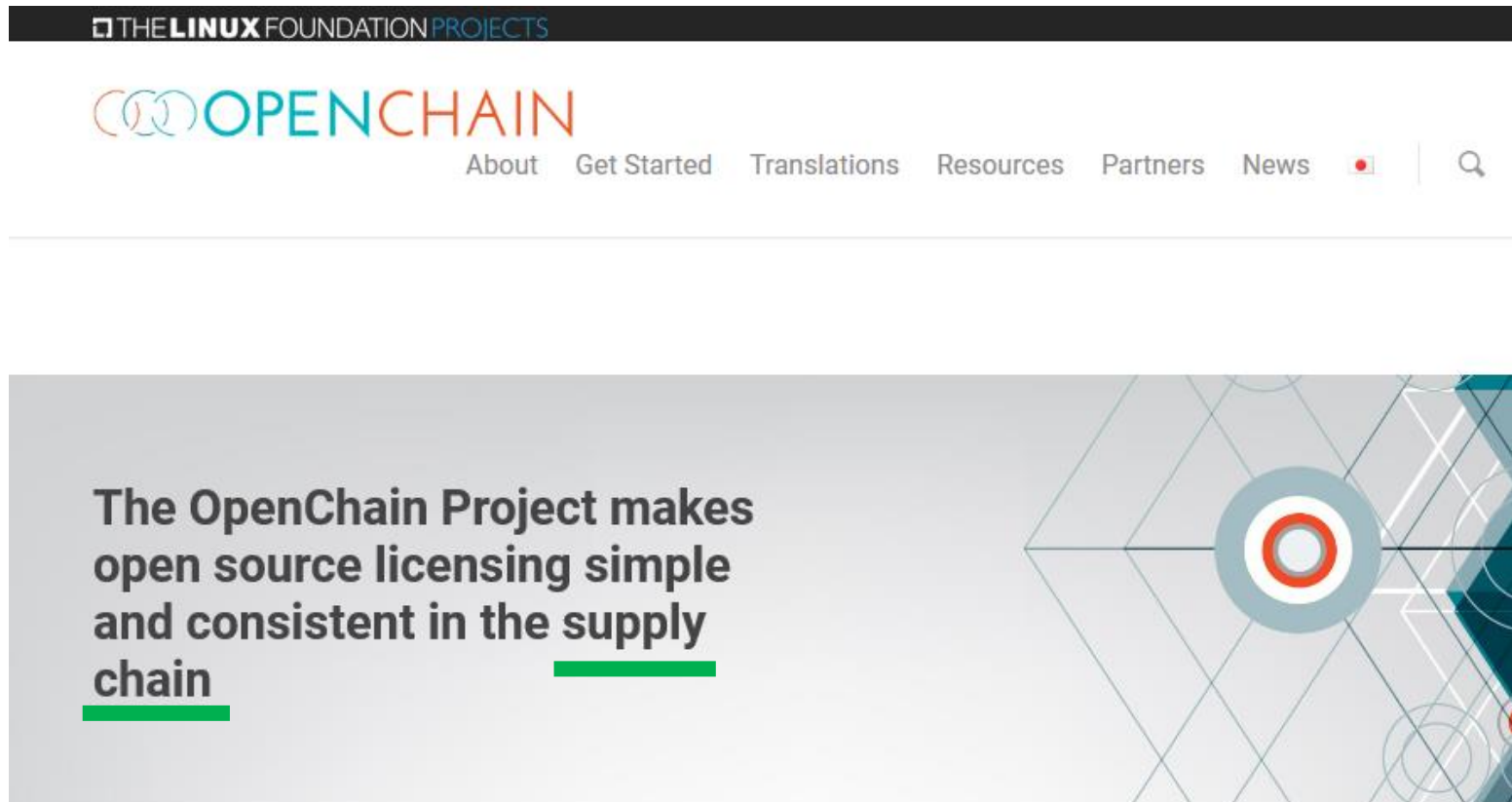
以上

上記質問事項につき、以下のとおり回答いたします。

納入物の名称 : \_\_\_\_\_

納入物における OSS 利用の有無 : ( 有 ・ 無 )

ただし、サプライチェーンの皆さんに納得してもらわないことには、サプライチェーンの各社にとっては単に面倒な書類が一枚増えるだけです。



まずは「サプライチェーンの皆さんに納得してもらおう」ための活動の場として、OpenChainがあります。

オリンパスは OpenChain のメンバーでは**ありません**。Linux Foundation のメンバーでも**ありません**。ですが、**OpenChain Japan Work Group のメンバー**として活動しています。

こんなオリンパスでも迎え入れてくれるほど、OpenChain Japan WG は懐が深いです。ぜひ、みなさんも OpenChain Japan WG に参加しましょう。（やり取りも日本語でできます！）

**OLYMPUS**

---